

筑波大学名誉教授の会会報

第5号

2000年3月発行
〈題字：中村伸夫〉

目 次

母校の近況	桑原 敏明	2
全日本大学女子駅伝初優勝！	永井 純	3
大学選手権三連覇達成！	都澤 凡夫	3
前田佳子選手 柔道世界選手権大会の優勝	中村 良三	4
会務報告		5



大学会館

母校の近況



総務担当副学長 桑原敏明

本学が、今取り組んでいる主要事項のいくつかを記します。

1 独立行政法人化への対応

本学のみならず、すべての国立大学は、得体の知れない「独立行政法人化」政策への対応に振り回されています。国立大学に残るか、独立行政法人に転身するかは、今後の発展の大きな分かれ目となる重大事項と考えられます。来夏まで格闘が続きます。

2 大学院改革

独立行政法人となるか否かにかかわらず、本学は発展しなければなりません。発展のためには、本学は大学院を重視する大学とならなければなりません。

1) 博士課程の部局化

大学院を重視する大学は、大学院が部局化（重点化）されています。本学は、すでに重点化されている側面もありますが、研究科は部局化されていません。そこで、博士課程研究科の大研究科への統合再編を図るべく、理工農8研究科の3大研究科への改組を平成12年度の概算要求として提出したところです。これに続き、平成13年度には人文系5研究科、人間系6研究科の大研究科への再編案を提出する準備を進めています。

2) 修士課程の質量ともの充実

同時に、修士課程の質と量ともに充実を目指して、高度専門職業人の養成に特化した新研究科の創設、社会人対象夜間大学院の拡充などを検討しています。

3 施設設備の充実

1) 電子図書館の充実 URL:www.tulips.tsukuba.ac.jp にアクセスしてみて下さい。

2) 陽子線医学利用研究センターの新設 大学病院の西側に来年秋に完成します。すでに、開学30周年の準備を始めました。名誉教授各位のご支援をお願いします。

全日本大学女子駅伝初優勝！

(日本I.C 女子10年連続制覇)

陸上競技部長・体育科学系教授 永井 純



昨年の11月28日、12時15分、大阪長居競技場を出発し、心斎橋を折り返す全長39kmのコースで行われた第17回全日本大学女子駅伝におきまして、筑波大学は初優勝を飾ることができました。17回連続出場（筑波大学のみ）をしておりましたが、やっと栄冠を勝ち取ることができました。

レースは、第1区8.5km 山中美和子（3年・添上）が4位の位置につけ、2区6.2km 岡本由美子（4年・築館女）で先頭を奪うという展開になりました。3区3.8km 菅野勝子（1年・田村）がリードを広げ、4区7.5km 山崎麻子（1年・磐城女）が区間賞を奪う好走を見せさらにリード、5区4km 猿田なつ奈（3年・太田一）がそのまま1分のリードを保ち、6区9km 田上麻衣（2年・西脇工）に「たすき」を渡しました。故障が完治してない田上は、後半急激な追い込みにあいましたがなんとか逃げ切り、初の優勝を勝ち取ることができました。

また、9月10, 11, 12日に国立競技場で開催されました日本インカレでは、女子1500mで1, 2位を独占したことが起爆剤となり、次々と得点を重ねることができました。終わってみれば、2位の得点の約3倍の高得点を記録しました。昭和63年に初優勝を飾り、平成元年は2位に終わったものの、平成2年から常に2位チームを大きく引き離しての10連勝を達成しました。

今後は、欲張って20連勝を目指します。ご支援・ご声援いただければ幸いです。

大学選手権三連覇達成！

男子バレーボール部監督・体育科学系助教授 都澤凡夫

昨年12月17日から19日に大阪府立体育館で行われた第52回秩父宮賜杯全日本大学男子選手権大会において、男子バレーボール部は史上3チーム目となるインカレ三連覇を達成しました。

昨年のチームから今や全日本のエースに成長した加藤ら主力選手4名が交替し、春・秋のリーグ戦、東日本インカレも十分な結果を出せずに終っていただけに、ビッグタイトルは嬉しさがひとしおのものでした。

優勝の最大の要因は、主将の石田を筆頭に学生生活最後の大会に賭ける4年生諸君の頑張りに尽きます。4年生達の意気にエースの甲斐（体専3年）以下の下級生が引張られ、大活躍をしてくれました。

今年は年始早々カナダへ10日間の遠征合宿を行い、四連覇へ向けてスタートを切りました。今年も「筑波大ここにあり」の意気を大いに示す所存です。

前田佳子選手 柔道世界選手権大会の優勝

柔道部副部長・体育科学系教授 中 村 良 三

筑波大学体育専門学群2年の前田佳子選手は、平成11年10月イギリス・バーミンガムで開かれた世界柔道選手権大会の女子63kg級において、全ての試合を1本勝ちし、初出場ながら、また日本代表選手中最年少で優勝いたしました。前田選手の特徴は、これまでの女子選手には見られない独特の切れ味鋭い背負い投げを得意技とした柔道です。高校時代（兵庫県湊川女子高校）にはインターハイで優勝するなどの実績で期待されて本学に入学してきました。高校時代の得意技は背負い投げと内股を中心に活躍していましたが、筑波大学に入ってからは特に背負い投げに一層の進歩を見せるようになりました。今回の世界選手権では5試合のうち4試合を背負い投げで1本勝ちするまでになりました。入学時から目標を世界の舞台にしほり、たゆまぬ努力を続けてきましたが、それが実を結んだと言えます。本人は背負い投げの選手が罹りやすい肘の怪我のため年末に手術を行いましたが、シドニー・オリンピックに向かってふたたびトレーニングを開始しています。応援をよろしくお願ひいたします。

尚、女子52kg級で優勝した樋崎教子選手も本学のO.G.（体育専門学群 平成7年卒 同研究科 平成10年度卒）です。シドニーでの活躍が期待される所です。



写真提供 財団法人 日本柔道連盟

会務報告

平成11年度名誉教授の会新会員名簿

氏 名	学 系	氏 名	学 系
浅野 勝巳	体育	洲崎 恵三	現育
天野 正治	教 育	関岡 康雄	體育
内島 俊雄	質 工	土屋 滋	社 医
江藤 肇	社 工	朽堀 申二	體育
片岡 曜夫	体 育	中川 文雄	歷人
加藤 慶二	現 現	花井 等	歷人
河鳥 拓治	化 学	廣川 洋一	哲思
草薙 裕	文 言	松下 雄	基生
熊崎 實	農 林	山村 和雄	応医
斎藤 武生	現 現	山下 龟二郎	臨工
佐々木 俊介	教 育	吉崎 繁	農
下田 右	地 球		

第14回名誉教授の会総会

第14回名誉教授の会総会は、平成11年11月8日茗渓会館において、69名の会員が出席して開催しました。北原学長のごあいさつをいただいた後、議事にはいり、庶務・会計・会報についての中間報告、役員幹事等の交代等について了承されました。

総会終了後、11時より総務担当副学長桑原敏明氏から大学の近況、特に独立行政法人化への対応についてご講演をいただきました。

12時20分から懇親会を行い、14時30分に全ての行事を終了して散開しました。

筑波大学名誉教授の会役員名簿

11年12月～13年12月又は12年12月

学系等	役員	現役員	任期	備考
哲学・思想学系	工藤 喜作	工藤 喜作	13年12月	
歴史・人類学系	大藪 正哉		12年12月	
文芸・言語学系	森野 宗明	森野 宗明	13年12月	
現代語・現代文化学系	島岡 丘		12年12月	
社会科学系	長尾 昭哉	小林 彌六	13年12月	
数学系	中川 良祐		12年12月	
物理学系	三好 昭一	三好 昭一	13年12月	
化学系	大西 寛		12年12月	
地球科学系	吉野 正敏		12年12月	
教育学系	高倉 翔	高倉 翔	13年12月	
心理学系	高野 清純		12年12月	(庶務担当)
心身障害学系	佐藤 泰正	佐藤 泰正	13年12月	(留任)
生物科学系	渡辺 浩		12年12月	
農林学系	佐藤 昭二	田中 洋介	13年12月	
農林工学系	青山 経雄	鈴木 光剛	13年12月	
応用生物化学系	今川 弘		12年12月	
社会工学系	川手 昭二		12年12月	
物理工学系	田崎 明	田崎 明	13年12月	
物質工学系	南日 康夫	岡崎 誠	13年12月	
構造工学系	本間 琢也	本間 琢也	13年12月	
電子・情報工学系	藤原 讓		12年12月	
体育科学系	寄金 義紀	※朽堀 申二	12年12月	
体育科学系	藤田 紀盛		12年12月	(会計担当)
体育科学系	大木昭一郎	大木昭一郎	13年12月	(留任, 会報担当)
芸術学系	伊藤 鈞		12年12月	
芸術学系	眞保 亨	平 不二夫	13年12月	
基礎医学系	田村 昇		12年12月	
臨床医学系	淺井 克晏	淺井 克晏	13年12月	
社会医学系	藤木 素士		12年12月	
学校教育部	小林 学	小林 学	13年12月	
会長	松木 重雄		12年12月	
副会長	菅野 三郎	菅野 三郎	13年12月	
副会長	山口 誠哉		12年12月	
会報担当	鈴木 博雄	鈴木 博雄	13年12月	

(注) 網掛けの現役員は任期満了を示す。

※については、任期内の交代のため、前任者の残任期間とする。

編集後記

会報第5号の発行に当たり、桑原敏明総務担当副学長から「母校の近況」を寄稿いただきました。大学の独立行政法人化への対応、大学院改革などその状況を知ることができました。また昨年末には、母校の運動部の皆さんのが大活躍されました。指導に当たられた永井、都澤、中村の各先生からご寄稿いただきました。ご多忙の中をお差し繰りいただき、ご寄稿いただきました桑原副学長をはじめ、各先生方に衷心より感謝申し上げますとともに、今後のご活躍を祈念申し上げます。

編集担当 鈴木、大木